

議長記者会見（第25回）会見録

日時：平成29年6月29日（木）

午後2時から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室



会見を行う米澤議長（右）と山口副議長（左）

1 今定例会を振り返って

伝統のございます石川県議会の第99代議長として、今定例会を無事終えたわけでございまして、私も議長になってから3カ月経過いたしました。所感を述べるということになれば、あっという間の3カ月であったかなとそういう感じがするわけでございまして、就任以来、毎日毎日いろんなところに出向いて、いろんなお話をしたりしてきたわけでございます。そういった意味では、本当にあっという間でございました。

その中でも、特に、6月10日の皇太子殿下をお迎えしての全国「みどりの愛護」のつどいでございましたけれど、私にとって、大変貴重な体験をさせていただいたなとそういう感じがする3カ月でございました。

今議会も先ほど終了したわけでございますけれど、いろんな議員の先生方の質疑等を

聞いておまして、新幹線の問題やら、小松、のと両空港、それから金沢港、それから農林水産業のブランド化、それから安全安心の問題も含め、なおかつ、やはり人手不足と言いますか、最近、県内で深刻な問題となっています人手不足も多くの議員の先生方から質問が寄せられたんじゃないかなと思っています。

それと同時に、人口減対策もやはり喫緊の課題として今議会の議案として大変数多くあったのではないかなという感じはするわけでございます。

その中で、先ほど議決をされましたスポーツ推進条例でございますけれども、これにつきましても、「する」、「観る」、「支える」というキーワードの基に、すばらしい議員提案条例が可決されました。これからは、せつかく作られた条例でございますから、執行部と力を合わせて、この中に魂を入れていかなければいけないな、作ってこれで終わりじゃなくて、作ったこれからが始まりである。これもまた、議員同士でいろんな話をしながらより良い条例となるように努めていきたいと思っております。

今会議を振り返っての所感でございますけれども、簡単に雑ばくな所感で大変恐縮でございますけれど、やはり県民のための議会であります。それは、議長の席に座って、皆さん方の真摯なそれぞれのいろんな大きな課題、地域の課題等々切実に訴えていたということ、私も座る場が違ってはいたんですけども、ひしひしと感じてきた議会だったなという感じがするわけでございます。これからも、県民のことをいろいろ考えながら議長職にこれからも努めてまいりたいというふうに思っております。以上でございます。

山口副議長

議長にしっかりお支えをいただいて、なんとか3カ月持つことが出来たかなとこんなふうに思っております。金沢選出の中村議員の口癖なんですが、能登がよくなると石川県がよくなると。まさにこのとおりだと思います。

菊は栄える葵は枯れるということわざがございますけれども、まさに金沢は菊でございまして、特に奥能登は葵、そんな環境にあるというふうに思います。しかし、6万弱の人間が生活している地域でありますので、その方々が夢を持つとまでいかななくても、せめて、諦めずにこれからも頑張っていこうというような体制をしっかりとっていけるように、議長さんやベテラン議員さんの力を借りて、私なりに頑張っていきたいなと、こういう感想を持っております。以上であります。

2 質疑応答

記者

議長、開会前に自民党の会合で議会改革の調査を挙げられて、順位が低いことに言及されていたこと、解決できるところをこれから精査、という発言あったと思うんですけど、今の段階で県議会を見ていらして、どういったところが足りない、所見があれば。

米澤議長

あのときも申し上げましたけれども、評価のなかに、例えば、市町議会が全員協議会なんかやっていると、石川県議会には全員協議会というのはないわけでございます。そういったものが点数的に非常に低く評価されている。それが全体を押し下げているかなという気がするわけでございます。

例えば、石川県議会は、各常任委員会を毎月、定例会みたいにやっている訳でございます。たぶん皆さん方も他の県を調べて分かるとおおり、毎月、常任委員会を開催する県はそう多くないと思うんです。回数的には、もっともっと何回もうちの倍以上、倍まではいきませんが、1.5倍ぐらいやっている県もございましてけれども、決して石川県がそこらへんが遅れているという感じは僕はしなかった。

僕は、議員になる前、県の職員だったものですから、いったい、いつ我々の仕事ができるんだろうといつも思っていましたからね。毎月毎月、委員会があったらそのために準備するだけでも大変な時間とっていましたから。そういった意味では、定例会が年4回あって、各月の常任委員会、それから特別委員会がある。そのほかに各政策調査会や広報広聴会議とかいろんなものがあります。

そして、ここ3、4年議員提案条例、これも石川県ちょっと少ないんじゃないかということで、いろいろ調べた結果そういった結果がありましたんで、やっぱり、みんなで議論する場所を作ろうということで、ああいう議員提案条例もどんどんやってきましたし、携帯電話のどうのこうのから含めて4本、5本目ぐらいになるんじゃないかと。

執行部が条例を作るときは、いろんな基礎となるデータとか、ものの考え方とかいろいろあるわけでありましてけれども、議員がやる場合は、そこを一から勉強していかなければいけないんです。それも、それぞれの素人がやるものですから大変時間がかかってくる。

今回のスポーツの条例にしても20回ほどやっておりますし、前回のがん対策についても、全部合わせると30回近く議論を進めてきている。そういった意味では、私は、そんなに石川県議会というのは、あのランクに示されたぐらいの低さではないなど、そういう感じをしています。

そして、今度8月になりましたら、親子県議会教室を開催しています。毎年好評の企

画でございます、今年でだいたい160組くらいの申込みがあったようでございます。それを、半分以下にまた今から調整をしなければいけないと言いますか、くじ引きをしなければいけないわけでございます。そういった意味で、あのこと一つのことをとっても、そのあと事務局はアンケート調査をとっているみたいですが、もう99パーセント、100パーセントはものすごく良かったと、いい勉強になったと、県議会といったら市町議会と違って、少し住民との間隔があるかなと思ったんです。それが子供たちが十分理解できたというアンケート調査が寄せられていましたしね。そういった意味では、一つの取り組みとして、もう4回目になりますけれど、情報公開の意味も含めてですね、子供さんだけでなく親御さんも来ていらっしゃるから、そういった意味でいいのかなと。

そしてあのランクの低さというのは、私が前に述べたとおり、少し精査をしないと、何をもって低いかというのを、もう少し議論していかないといけないと思うものですから、議会改革のほうで、少しそこらへんも昨日、話題が出ていたようでございますから。

低いというところが、やはり一般的に見れば低いというランクになるかも知れないけれど、我々県議会とすれば、やっているつもりなんだけれども、世間一般的に低いと見られるかも知れないから、そこは石川県議会として何が問題点があるのか、少し掘り下げて調べる必要があるかなと思っております。その結果を見て、我々としてできることがあるのか、県民との距離は本当に開いているのかどうか、そこらへんを含めてもう少し掘り下げてみたいなと思っております。

山口副議長

一ついいですか。議会改革という新しいものをどんどん取り入れていくということ。これは大事なことでありますけれども。以前からのものがずっと残ったままなんですよ。人間というのは誰も時間は同じなんで、その中で新しいものも取り組んでいかなければならない。古いものも続けていかなければならない。どうしても時間的に余裕がなくなる。

私も執行部にいた経験があるものですから、例えば、予算委員会で質問、一般質問はそれはいいんですけども、予算委員会も初めは特別委員会があって予算委員会がある。質問者も増えてくる。私の感想なんですけど、質問をするための質問ということで、当然一般質問、予算委員会、ダブってきますわね。だいたい考えること人間同じなんでね。こんなにたくさん人間が、一回一回予算委員会であれだけの質問せないといけないのかなという、ただ、新しいものを取り入れていくのも大事ですけども、以前からあったものを、これは必要じゃないんじゃないかというものは、やっぱり、削減していくというかそういうことも大事ではないかなと感じています。ほかの議員さんとちょっと違うかもしれませんが。